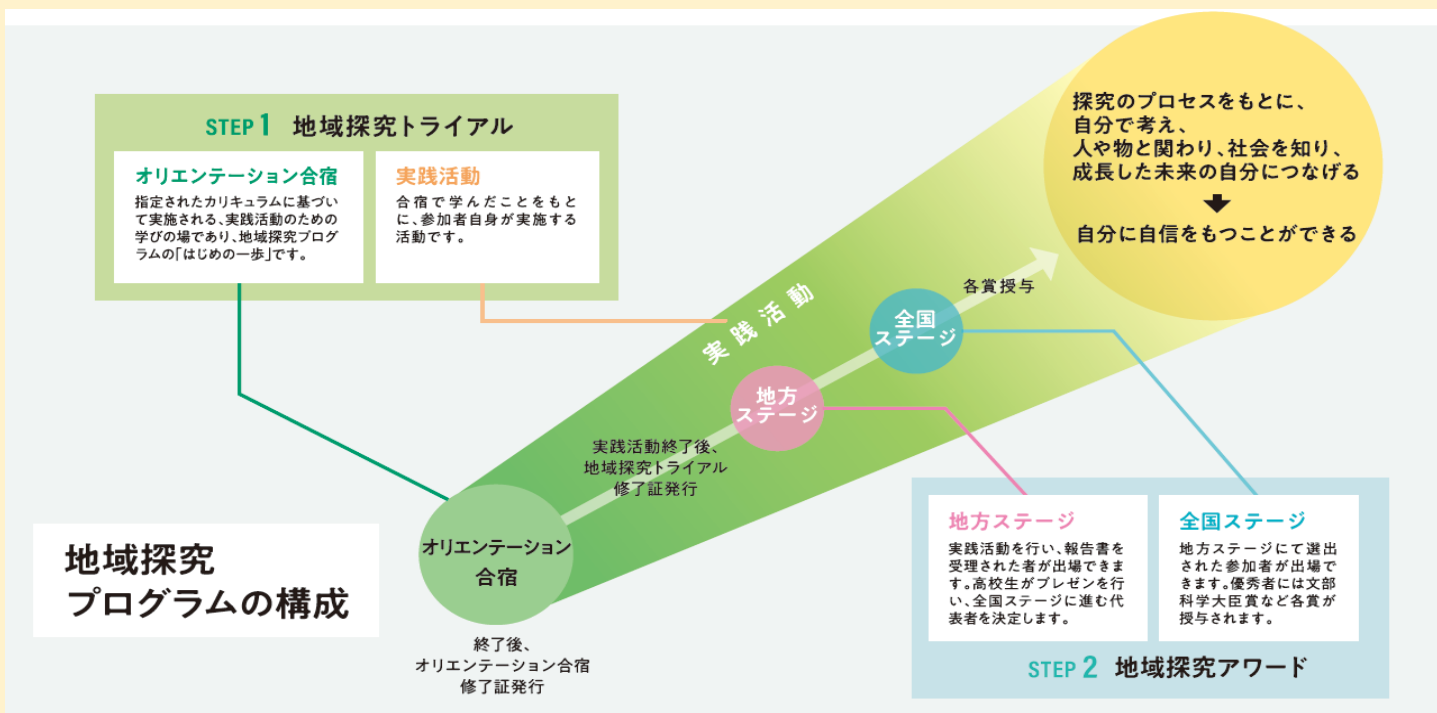


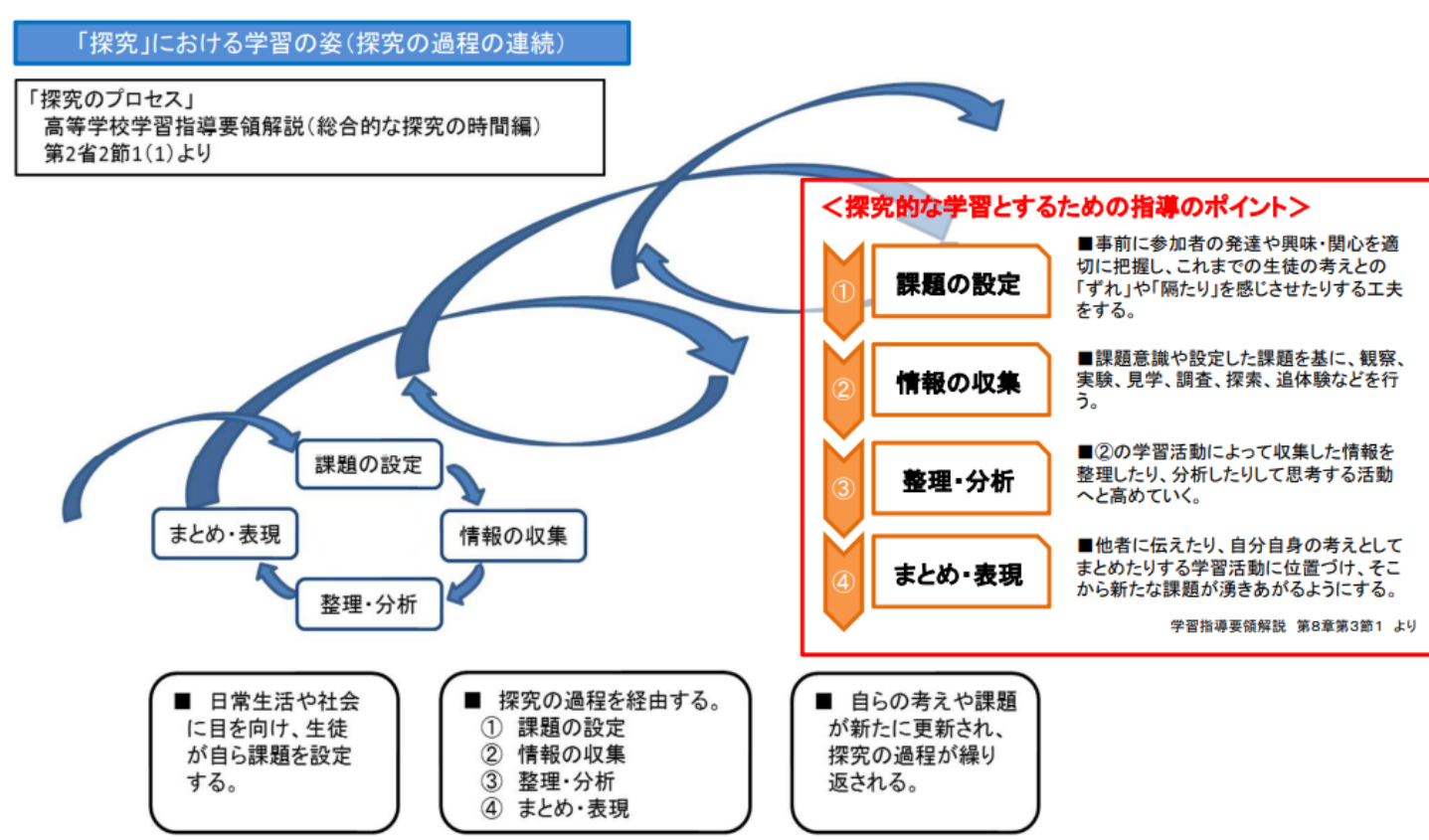
## 1. 地域探究プログラムの構成

「地域探究プログラム」は、高校生生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度です。取り組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」とステップⅡ「地域探究アワード」から構成しています。「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そして「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行います。



出典：全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」運営に関するガイドライン（2022年7月）

## 2. オリエンテーション合宿で学ぶ「学びのサイクル」



出典：全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」運営に関するガイドライン（2022年7月）

## 3. オリエンテーション合宿の実施例（連携校：群馬県立沼田女子高等学校）

【ガイダンス・事前学習を学校にて実施】※日程は、学校の年間指導計画に応じて、柔軟に対応します。

回	カリキュラム科目	学校にて、ガイダンス等を実施
1	ガイダンス	1回：施設職員が、「地域探究プログラム」について説明。
2	講話等「地域づくりの実践」	2回：講師の方が、地域活性化へ向けた取り組みを紹介。「地域活性化」について、参加者自身が深く調べたいテーマを設定。

【オリエンテーション合宿を施設にて実施】※2泊3日または1泊2日で実施

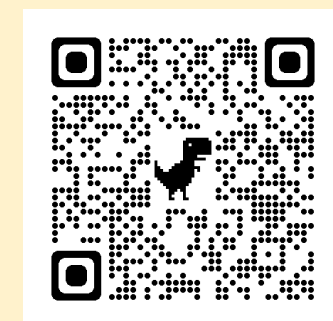
回	カリキュラム科目	施設にて、「探究のプロセス」を体験する科目を実施
3	フィールドワーク①「地域の魅力を発見」	合宿では、
4	講義・演習①「地域理解」	3回：講師と一緒に、沼田市内で多機能型事業所を見学。作業体験。
5	講義・演習②「課題解決の基礎」	4回：体験した活動から、多機能型事業所の魅力や課題について考察。
6	フィールドワーク②「地域課題の探究」	5回：考察から、「多機能型事業所活性化プラン」のアイデアを考案。
7	講義・演習③「地域課題の探究」	6回：講師も交え「多機能型事業所活性化プラン」の練り直し。
8	発表①	7回：発表に向けて、資料作成。 8回：施設で合宿のまとめとして、企画発表。 ※2年生17名が合宿に参加

【合宿後の活動を学校にて実施】※2学期の授業に合わせて、日程を調整します。

回	カリキュラム科目	学校にて、実践活動の事後学習を実施
9	講義・演習④「行動計画の基礎」	9回：合宿で学んだことを活かし各自の探究活動の計画を立てる。
10	発表②	10回：学級ごとに各自の計画を発表。
11	実践活動のためのガイダンス	11回：実践活動に取り組む上での注意事項を確認し、実践活動を実施。 ※施設職員が学校を訪問し、合宿後の事後学習を支援



オリエンテーション合宿の様子



<https://akagi.niye.go.jp/wp-content/uploads/2023/02/R4ori.pdf>

活動の様子は、こちらからご確認ください。

国立赤城青少年交流の家  
公式YouTubeチャンネル  
ササビーチャンネル



<https://www.youtube.com/channel/UCWIrCRSiXIt1fIZ3E7l4Qxw>

（合宿後の活動の様子も一部ご覧になれます。）

## 4. 連携（2年間）後の高校の取り組み（R2~R3連携：前橋市立前橋高等学校）

【ガイダンスを学校にて実施】※学校の取り組みを施設職員が支援します。

回	カリキュラム科目	学校にて、ガイダンス等を実施
1	ガイダンス	1回：施設職員が、「地域探究プログラム」について説明。

【学校主導の合宿を施設にて実施】※1泊2日で実施

回	カリキュラム科目	施設にて、「探究のプロセス」を体験する科目を実施
2	ワークショップ・講話等 「地域づくりの理解と課題設定の基礎」	合宿では、
3	講義・演習①「地域づくりと探究」	2回：赤城山大沼周辺で「赤城山観光」を体験
4	発表①	3回：体験した活動から、赤城山の魅力や課題について考察。考察から、「赤城山活性化プラン」のアイデアを考案。発表に向けて、資料作成。 4回：施設で合宿のまとめとして、企画発表。 ※2年生29名が合宿に参加

【合宿後の活動を学校にて実施】

回	カリキュラム科目	学校にて、実践活動の事後学習を実施
5	講義・演習②「地域課題の探究」	5回：合宿で学んだことを活かし「前橋市活性化プラン」をすすめる。
6	発表②	6回：学級ごとに「前橋市活性化プラン」を発表。
7	実践活動のためのガイダンス	7回：実践活動に取り組む上での注意事項を確認し、実践活動を実施。 ※合宿に参加した生徒が各クラスを中心として活動

課題解決のための仮説と計画  
私たちは、前橋市まちづくり公社の「まえばし1-1プロジェクト」という活動の認知度が低いという課題を認識しました。  
1（まえばし1-1プロジェクト）の活動内容を知ってもらうために、今、小学校の低学年の児童たちを対象とした活動を行うこと、まえばし1-1プロジェクトの活動内容を、まえばし1-1プロジェクトの重要性を知ってもらうこと、小学校の児童たちが、この年代に設定することで、知って、少年の年齢の幅を広げることができると考えました。また、次世代を担う小学校低学年の児童たちの興味を引くための活動の企画に貢献できるのではないかと考えました。  
2（地域活性化のために）  
私たちが考える、地域を活性化するために必要なのは人の興味をひくことと考えました。  
そのため、まずは活動を知ってもらう上で、まえばし1-1プロジェクトの魅力を伝えるために、活動の魅力を伝えることができれば、活動が活性化し、活動の重要性を知ってもらうことができると考えました。  
このことから、活動の魅力を伝えるために、活動の重要性を伝えることができれば、活動の重要性を知ってもらうことができると考えました。活動の魅力を伝えることができれば、活動の重要性を知ってもらうことができると考えました。活動の魅力を伝えることができれば、活動の重要性を知ってもらうことができると考えました。

【地域探究プログラムのシステムを利用し報告書を作成】

学校にて、地域探究プログラムのシステムを利用し  
実践活動報告書を作成

- ・課題の設定と意図についてまとめる。
- ・課題解決のための仮説と計画をまとめる。
- ・活動で工夫できたこと、学びや気づきをまとめる。
- ・今後の展望、新たな取り組みについてまとめる。

【作成した報告書をもとに地方ステージに出場】

- 希望者は、報告書を活用し地方ステージに参加
- ・グループまたは個人で実践活動を発表
- ・近隣国立青少年教育施設の高校生と交流



【作成した報告書の一部】



【地方ステージでの発表の様子】

国立青少年教育振興機構ホームページ



（全国ステージの様子が一部ご覧になれます。）